

横須賀線と弁天様の田

明治二二年六月に開業した横須賀線が北西から南東に小袋谷を貫いて三対一ぐらいに二つに別けてから百二十年以上の時が経ちました。

横須賀線は軍用鉄道として建設されました。明治十九年に陸海軍両大臣が観音崎の要塞、横須賀軍港への軍事輸送の困難を訴え鉄道敷設を内閣に請議、二一年一月に着工、東海道線の大船信号所に大船駅を設けそこを分岐点に横須賀駅までの線路約十六キロを一年半で開通させました。この早さで軍がどれ程工事を強行したかが分かります。東海道線の建設費を流用して、線路は円覚寺境内を横切り白鷺池を半分ほど埋め立て、若宮大路の段葛は下馬までありましたが線路と交差する辺りが破壊されました。

小袋谷も強引な用地買収が行われたのではないかと思われます。多くの家で田畑を手放しました。その頃、成福寺前の踏切のそばにあった厳島社の神社地もほとんど収用され、社は公会堂の辺りに遷されました。氏子が世話していた隣の弁天様の田も半分ほど三角形に残っただけでした。そこでできた米で祭りの時に赤飯を炊いて配ったそうです。冬はそこに氷が張りその上で子供達が遊ぶので氏子の役員が朝氷を片付けに来たそうです。その田も戦後に売却されてなくなり、現在わずかに残った神社地に石の祠があるだけで、その祠にどんな神様を祀っていたのかも今は分からなくなりました。それ、これからはその石祠を厳島社元宮として祀ることを提案したいです。